週報
2026 10/7
No.10
RI第2620地区
静岡第1グループ

三島ロータリークラブ
第3286回・合同例会

■会長:松田吉嗣君■幹事:綾部　剛君
●ホスト:長泉ロータリークラブ
■URL:http://mishima-rc.com



今回の例会は長泉RCさんとの合同例会で米山梅吉記念館で行われました。と言うことで、米山梅吉記念館のうんちくを一つ。
皆さんは、米山梅吉記念館の「龍舌蘭」って知ってますか？数十年から百年に一度だけ花を咲かせる植物で、テキーラの原料になったり、甘味料に利用されたり、ロープや麻袋の素材に利用されたりと多才な植物のようです。

写真は例会当日に撮った米山梅吉記念館内にある「龍舌蘭」です。今は枯れた姿になってしまっていますが、根元のところに子株が育っているようです。昭和6年(1931)7月と令和6年(2024)7月に開花した記録があるそうです。その間93年、さて私たちはこの「龍舌蘭」の次の開花に立ち会うことは出来るのでしょうか？

会長挨拶

長泉RC会長　井口昭宏君

皆さん、こんにちは。
本日は三島ロータリークラブの皆様をお迎えしての合同例会となります。日頃より地域で奉仕活動を共に進める仲間として、こうして同じ時間を共有できることは、私たち長泉ロータリークラブにとっても大きな励みであり、学びの機会でもあります。
また本日は、卓話ゲストとして株式会社シード　代表取締役　西島　英弘様をお迎えしております。シード様といえば、三島駅ホームの目の前に掲げられた大きな看板でおなじみであり、県外での知名度も非常に高い企業様です。多角的な事業を展開されており、本日はグローバルな視点からのお話をお伺いできるとのことで、大変楽しみにしております。
さて、最近のニュースでは企業や自治体における個人情報漏洩問題が連日取り沙汰されております。デジタル化が進む現代において、情報管理の重要性を改めて痛感させられます。私たちロータリークラブにおきましても、会員情報や米山奨学生のデータを扱う立場として、決して他人事ではありません。信頼の維持に努めてまいりましょう。（ちなみに今年の漢字は「漏」になると予想しております。笑）
今月は「米山月間」です。会場である米山梅吉記念館は一昨年に大改修を行い、2階展示室の展示内容が大幅にリニューアルされております。まだご覧になっていない方は、ぜひこの機会にご見学ください。
本日の合同例会が両クラブにとって新たな交流の一歩となり、地域の未来を支える力強い後押しとなることを願っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

出席報告

	出席総数	出席率	
今　回	28／42	66．67％	会員総数:43名

＜欠席者＞
・青木君　・太田君　・長田君　・小野徹君　・加藤頌君
・河田君　・古口君　・佐藤良君　・杉村君　・瀬川君　・関君
・永田君　・野口君

ゲスト・ビジター

西島英弘様（㈱シード）
張　傑君（米山奨学生）

幹事報告

幹事　綾部剛君

1.「古着でワクチン」ご協力のお願い（写真撮影について）
ガバナー公式訪問の際にいただきました「古着でワクチン」の回収袋についてお知らせです。ガバナーのご意向を踏まえ、集まった古着と共に記念写真を撮影したいと考えております。古着をお持ちくださる方は、11月11日の呉竹例会時にお持ち寄りください。
2. ロータリー友情交換プログラム参加者募集
フィリピンの第2820地区より「ロータリー友情交換プログラム」の参加者募集案内が届いております。日本側受入日程は11月27日～11月30日、フィリピン派遣日程は2027年3月12日～3月15日です。対象は2620地区の全ロータリアンで、定員は20名となっております。興味ある方は幹事までご連絡ください。
3.次回の例会は10月14日（水）、会場は呉竹となります。例会前に「理事役員会」を開催するほか、例会終了後「創立70周年実行委員会」を開催いたしますので、担当の皆様はお集まりをお願いいたします。

卓話

西島英弘様



本日は、私自身の経験を交えながら、SEEDが取り組む海外事業と中小企業の未来についてお話しさせていただきました。

私の原点には、大学時代の空手道部で恩師から教えられた「汗は嘘をつかない」という言葉があります。自分では限界だと思ったところまで本気でやったのか。そこからもう一歩踏み出せるか。その経験は今の経営にもつながっています。自分一人で走るのではなく、社員や仲間、お客様と一緒に汗をかきながら未来をつくることを大切にしています。

日本は人口減少が進み、国内市場だけを見ていては、地域に2社あった企業が1社しか残れない時代が来るかもしれません。しかし「世界の財布」を持つことができれば、2社とも残れる可能性があります。だからこそ、地域企業が海外に目を向けることには大きな意味があると思っています。

SEEDでは、まず自分たちが挑戦しようと、マレーシアで十割そば「元年堂」を立ち上げました。現地で商売をすると、ハラルをはじめ、机上の調査では分からないことが数多くあります。一方で、日本の技術、食品、サービスにはまだ世界に知られていない価値がたくさんあると実感しています。

海外進出は大企業だけのものではありません。まず小さく試し、現地の声を聞き、売れる理由をつくってから広げていけばいい。「三島から世界へ、未来を仕掛ける」。一社でも多くの中小企業が世界へ一歩踏み出せるよう、これからも一緒に汗をかいていきたいと思います。









スマイルBOX

●山岡修一君

9/15、初孫（男）が生れ、86才で「じじい」が「おじいちゃん」になりました。